

日野川の源流と流域を守る会の活動紹介

日野川の源流と流域を守る会では、日野川流域の自然環境を守り、日野川を恵まれた環境のまま、次の世代へ引き継ぐために様々な活動を行っています。本年度の活動を一部紹介します。



日野郡のお米についての

取組いろいろ

日野郡はおいしいお米の産地として広く知られていますが、それは肥沃な水田、日野川水系などの豊かな水、米作りに適した気候があったからというだけではなく、それらを活かした生産者の努力や創意工夫があつてこそだと思います。そこで、それらの取組の一端を紹介いたします。

①日野郡全体での取組

日野郡のおいしい米をPRすると共に、生産者がお互いの米生産技術を競い合うことで技術の向上を目指しています。

日野川源流米コンテスト

皆さんもよくご存じのコンテストだと思いますが、今年で15回目、日野郡(旧溝口町を含む)全域で生産された米であれば、どなたでも対象となります。田植時期や肥料、水管理、減農薬など様々な工夫され、各生産者が一番うまいと思った米が出品されます。例年200から300点もの出品があり、米の一大イベントとなっています。

②特別栽培米によるブランド化

通常の栽培より農薬や化学肥料の使用を少なくし、更に食味を重視した米づくりが進められています。

日野特別栽培米研究会

研究会が始まった平成17年産米は、53名(31ha)でスタートしましたが、現在は145名(130ha)となっています。研究会の名前になっている「特別栽培」は通常の栽培に対し、農薬の使用回数と化学肥料(窒素)使用量を共に5割以下とする栽培方法で、鳥取県がその登録機関になっています(本研究会では農薬5割・化学肥料9割削減)。また、88項目からなる農業生産行程管理チェックリストの記入が義務付けられており、決められた栽培上のルールや農薬の安全使用などを確認しながら栽培を振り返り、栽培や意識のレベルアップを進めています。

江府町奥大山プレミアム米 特別栽培米研究会

江府町内の米を対象に、全国に通用するブランド化による地域活性化と所得向上を目指して平成25年に結成された比較的新しい取組です。単県の事業「がんばる地域プラン支援事業」が活用され、土づくりや食味にこだわった栽培で、平成28年11月には、第13回お米コンテストinしずおかで、鳥取県で初めて最高金賞に選ばれ、他県の産地から大きな注目を受けました。



③稲作を中心とした法人の連携

日野郡は比較的水田が維持管理されていますが、人口減少や高齢化などの理由で個人の担い手が減少する中、各町に集落営農法人等が設立され、それらの法人等が相互に補い合う新たな取組を行っています。

日野郡中山間営農 ネットワーク協議会

日野郡の主に米関係の集落営農法人や株式会社、大規模個人農家が集まって、昨年度17経営体で結成された協議会です。お互いに情報を交換し、相互に事業提



携を進め、新技術の研究や様々な提案を行いながら、自身の経営や地域の持続的発展を目指しているところです。今年6月に日南町印賀で、ラジコンボートによる除草剤散布の実演会を開催し、新技術の有望性を検討しました。

日野川の自然環境と希少生物を守る体験学習会

日野川流域の自然と希少生物について学び、美しい日野川を次世代へ引き継ぐ意識の啓発を図るため、日野高校の生徒12名を対象として、7月14日(金)に江府町でオオサンショウウオの生態調査と川の生き物調べを行う「日野川の自然環境と希少生物を守る体験学習会」を開催しました。江府町にある日野川支流で、生徒たちはオオサンショウウオを長年研究されているNPO法人日本ハンザキ研究所の理事長 岡田純氏に説明を受けながら捕獲したオオサンショウウオの体長や体重の計測を手伝い、追跡調査のためのマイクロチップの埋め込みを見学した後に、元の場所に放流しました。

オオサンショウウオの観察が終わった後は、タモ網を使って川の生き物調べを行いました。サワガニやカワゲラなどきれいな川にだけ棲む生き物が次々と見つかりました。この学習会によって、生徒たちは日野川の豊かさを実感し、日野川の自然環境と生き物について学んだ様子でした。今回の学習会がオオサンショウウオの生態解明と美しく豊かな日野川の自然環境の継承に貢献することを期待しています。

※今回の調査は関係機関の許可を得て行っています。



岡田講師の説明を受ける生徒達



測定器にオオサンショウウオを移す生徒



熱心に川の生き物調べをする生徒

日野川一斉清掃&海岸植物等学習会

国土交通省が「河川愛護月間」と定める7月に合わせ、地域の住民やボランティア団体などが毎年7月の第1日曜日に清掃活動を行う「日野川一斉清掃」に参加しました。参加者は美しい河川景観や環境を守るため、ふるさとの日野川の恵みに大きな感謝を込めて、清掃ボランティア活動をしました。清掃の後は、鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会の藤原文子さんを講師に迎え、日野川河口から日吉津海岸に自生する植物について学ぶ「海岸植物等学習会」を開催しました。河口近くの海岸には、ウンランやハマゴウ、ハマボウフウ等、多種多様な植物約12種類を実際に見つけ解説してもらいました。参加者は熱心に質問をしたり、植物の触感や香りを楽しみつつ、熱心に観察しました。

今回の清掃活動と学習会が美しく豊かな日野川の自然環境の保全に繋がることを期待しています。



初めて見る植物の触感を確かめる参加者



親子で協力して清掃をする参加者

☎日野振興局 地域振興課
電話:0859-72-2081
FAX:0859-72-2072

☎日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090